

## 不登校支援室（サポートルーム）について

### 不登校児童・生徒の状況

当該生徒は、中学2年生であり、小学生の時から登校渋りがあった。保護者からの聞き取りで不登校の要因は、当該生徒は、学校の雰囲気や大人数で生活する環境に適応するのが苦手であり、中学校に入り学習面でもついていくのが難しい状況であった。

### 具体的な取組

#### 組織力の向上

担任や不登校担当教員からの情報を基に、ケース会議を実施した。ケース会議では、担任、保護者、本人による三者面談の内容や巡回相談心理士による生徒観察の様子等の情報を収集・分析・共有し、チーム支援の必要性和方向性を確認した。

#### 校内体制の強化

校内別室指導支援員が、生徒の状況に応じた個別支援の繋ぎ役となった。当該生徒が、サポートルームに登校した際に記入する「本日の予定シート」を基に、校内別室指導支援員がその日の状況について共有ボードを利用して教員に周知することで、きめ細やかな支援が可能となった。

#### 加配教員連絡協議会及び都不登校対策担当主催研究会の参加

各校の不登校支援の取り組みを共有し様々なこれからの課題を明確にして、自校に持ち帰り参考とすることにより、自校でのサポートルームでの支援や校内別室指導支援員の役割の見直しと改善、環境整備に役立つ事ができた。

#### 個々の不登校支援

別室での対応としても学習だけでなく過ごしやすい環境作りと短時間登校を意識して、学校へ登校するハードルを上げないように心がけた。



### 成果

教員との信頼関係を築ことができ、学習・進路の不安を相談できた。登校意識が高まり、自分のペースで学習を行うことができた。また、友人関係のつながりを保つことができ、学校行事に参加・見学することができた。

### 課題

- (1) 学習意識の向上
- (2) 成績の保証
- (3) 生徒への精神的配慮
- (4) サポートルームの拡充

## 生徒に寄り添った個別最適な指導について

### 不登校児童・生徒の状況

当該生徒は、小学生時代から登校を渋る傾向がある。学習面での課題と体調面での不安定さがあり、継続的に学校へ登校することに困難さを抱えている。集団での生活では遠慮してしまうことがあるため、自分らしさを表現する機会を設けて自己肯定感を高めていく指導が必要である。また、体調不良に配慮できる環境作りも必要である。

### 具体的な取組

#### SSR教室の効果的な活用

SSR（スモールステップルーム）を新設し、教室に馴染めない生徒の居場所作りを進めている。自習やオンラインでの授業参加、その他の自主課題の取組を進めている。授業への途中参加が難しい場合も活用している。



#### 個に応じた“活躍の場”の構築

生徒会活動と地域活動が連携し、小学生への夏季学習支援や、運動会や地域の祭礼のボランティアスタッフなど、教室以外の様々な場面で生徒が活躍できる場を設定し、生徒の自己肯定感を高め、繋がり



#### 巡回指導教室の利用

区の巡回指導を活用し、週1回1時間、生徒の特性に合わせた課題の克服に向けて取り組んでいる。特に、学習面での困難さを抱えているため、基礎的な学習プリントやAIドリルを活用した学習を進めている。また、特技を伸ばすために、タイピングで日記を作成している。

#### 月1回の生活アンケートの実施

毎月1回、生徒への学校生活アンケートを実施し、生徒の不安や悩みを聞き取る機会を増やしている。また、話をしたい相手を調査するアンケートも同時に実施し、他学年の教員や管理職、SCなど、様々な職員が生徒との関わりをもつきっかけ作りにも活用している。

### 成果

SSRの活用を進めたことで、生徒が学校生活での困難さを抱えた際の居場所作りを進めることができている。また、生活アンケートの頻度を増やしたことで小さな悩みも訴える生徒が増え、生徒の不安に対して速やかかつ丁寧に対応する材料になっている。

### 課題

不登校になりそうな生徒に対して一定の効果は上げられている。一方で、新規の不登校生徒も発生している現状がある。

## 一人ひとりの心に寄り添った校内別室支援教育の推進

### 不登校児童・生徒の状況

集団での話し合いなどが苦手な教室に入ることためらう生徒が多い。周りを気にし過ぎて、学習の課題や遅れなど教科の特性によって、教室での一斉指導や皆と協働しての学習に馴染めない。しかし、自分の課題解決に向けて努力している生徒が多い。

### 具体的な取組

#### 校内別室支援室の整備

- 教室に入らなくても ICT の活用や校内別室支援員の支援に基づいて、登校後に学習できる環境の整備と運用を進めた。



#### 心の豊かさを学ぶ教育を通して

- 日本や世界で活躍する人物の講演を通して「自分自身を大切にすること」や「どんな状況でも未来を想像して夢をもって生活すること」の大切さについて学んだ。
- オンラインや体育館 2 階から見学するなど個に応じた参加形態を設定した。



#### 東京都不登校対応モデル授業の推進

- 校内別室支援員の活用と不登校生徒の教室授業復帰を目指したモデル授業を実施し、報告会を行った。当日は 120 名の参加者がいたにも関わらず、校内別室支援員のサポートの中、授業に参加した。



#### 巡回指導や外部専門家との行動連携

- 都や区の心理士、小児医療メンタルクリニックの医師を講師とした研修を実施した
- 個別の課題をもっている生徒が、集団生活で起こり得る心理状況や、その時の対応について共有し演習を行った。

### 成果

登校時間や場所について幅をもたせたことや、当該生徒のアセスメントに重点を置いた定期的な会議の実施、そして、校内で個別に学習ができる環境を整えたことが、当該生徒の心理的安心感を増幅させ、欠席日数の大幅な減少や学校行事に意欲的に参加するなどの変容につながった。また、アンケートによる結果から登校意欲や自己肯定感が昨年よりも 2 倍以上向上した。

### 課題

校内別室支援室を利用する生徒が増えつつあり、一人の生徒に対して一人の支援員が着くことができない。それぞれの課題に沿った学習支援の準備や学習ツール（プリント、アプリ）などを充実させたい。